

2020年12月 幾 代 会 ま と め

日 時	202. 12. 13 (日)	10:00～15:30
天 気	晴れ	最高気温15度
散策 場所	臨川庭園	
散策コース	宮の平駅～一閑荘～臨川庭園～越前宅（お昼）～総会～日向和田駅	
参 加 者	太田、越前、PMから中部	
総 評	12月は太田さんと二人で一閑荘の50本以上植えられた茶の苗木を見学させて貰い、その後、初冬の臨川庭園を散策しました。午後は中部さんにも参加して貰い、3人で来年度（2021年）の幾代会の打ち合わせをおこないました。おかげで1月から3月までの散策場所が決まり良かったです。（越前紀）	

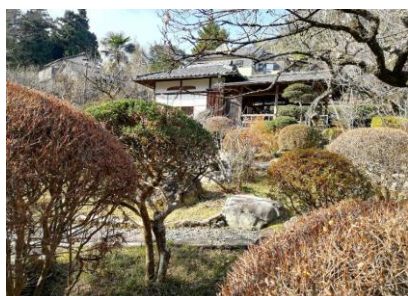


臨川庭園入り口の風格のある冠木門

かつては青梅の代議士だった津雲國俊が昭和9年に作った庭園。遺族から青梅市に寄贈され今は市民の憩いの場所となっている。

最寄りの宮ノ平駅からは歩いて5分とアクセスが良くいつ訪れても静寂が漂い、くつろげる空間です。

又、園内では何時も青梅市のシルバーの方が交代で小まめに手入れをされ、いつでも草木の見ごろを教えていただけます。



つぼみを付けた梅の枝越しに茶室の白壁が青空に生える

入口近くの散策路の足元で今年も胞子葉をもたげた数本の冬の花蕨が出迎えてくれた。

梅が咲く2月3月は香りとともに白梅紅梅が織りなし素晴らしい光景となります。そのころにはコロナさんが収まってくると良いですね。



飛び石を渡り、趣のある休憩所から園内を眺め下す。

梅や枝垂桜などの落葉樹はすっかり葉を落とし、初冬の静寂が感じられた。サツキやドウダンツツジ等が丸くきれいに剪定され、いかにも手入れの行き届いた枯山水の庭園と言った風情が感じられる。



藤棚の手前に花は3cmぐらいと小ぶりながら白地にピンクのぼかしが入った椿がつつまじやかに咲いていた。

葉はつやがあり12月から開花、おしべが退化し花は開ききっていないので侘助かと思われるが詳細は残念ながら不明です。

椿は品種が何百とあり侘助だけでも幾つかの品種がある。ただ調べたら侘助の乙姫（オトヒメ）という品種に非常に似ていた。

品種がいずれにしろ控えめな風情は侘び寂の茶室に似合う。

ツバキの葉の特徴は中心の葉脈がクリアで鋸歯が浅く、葉裏に毛がない。よく似た同属のサザンカは中心の葉脈は黒っぽく鋸歯が深くて葉脈に毛が有ることが特徴。

	<p>葉影に隠れて赤い艶やかな実を付けている万両。</p> <p>花が少ない初冬、人は目で鳥はお口を楽しませて貰える。</p> <p>縁起木としてお正月に寄せ植え等で楽しまれるがミヤマシキミが億両と言われていることはあまり知られていない。</p> <table><tr><td>ちなみに</td><td>一両</td><td>アリドオシ</td><td>アカネ科</td><td>アリドオシ属</td></tr><tr><td></td><td>十両</td><td>ヤブコウジ</td><td>ヤブコウジ科</td><td>ヤブコウジ族</td></tr><tr><td></td><td>百両</td><td>カラタチバナ</td><td>ヤブコウジ科</td><td>ヤブコウジ族</td></tr><tr><td></td><td>千両</td><td>センリョウ</td><td>センリョウ科</td><td>センリョウ族</td></tr><tr><td></td><td>万両</td><td>マンリョウ</td><td>ヤブコウジ科</td><td>ヤブコウジ族</td></tr><tr><td></td><td>億両</td><td>ミヤマシキミ</td><td>ミカン科</td><td>ミヤマシキミ族</td></tr></table> <p>いずれも常緑で赤い実を付けることが特徴。</p>	ちなみに	一両	アリドオシ	アカネ科	アリドオシ属		十両	ヤブコウジ	ヤブコウジ科	ヤブコウジ族		百両	カラタチバナ	ヤブコウジ科	ヤブコウジ族		千両	センリョウ	センリョウ科	センリョウ族		万両	マンリョウ	ヤブコウジ科	ヤブコウジ族		億両	ミヤマシキミ	ミカン科	ミヤマシキミ族
ちなみに	一両	アリドオシ	アカネ科	アリドオシ属																											
	十両	ヤブコウジ	ヤブコウジ科	ヤブコウジ族																											
	百両	カラタチバナ	ヤブコウジ科	ヤブコウジ族																											
	千両	センリョウ	センリョウ科	センリョウ族																											
	万両	マンリョウ	ヤブコウジ科	ヤブコウジ族																											
	億両	ミヤマシキミ	ミカン科	ミヤマシキミ族																											
	<p>多摩川沿いの石畳の散策路を南東側の東屋に向かう。</p> <p>臨川庭園と名前がついていますが、せっかくの眼下の多摩川が生い茂った灌木で見えづらいのが残念！</p> <p>柵の外は園外なので手が出せないのでしょうか？</p> <p>ただ、この庭園の一番の売りだと思うので惜しまれます。</p>																														